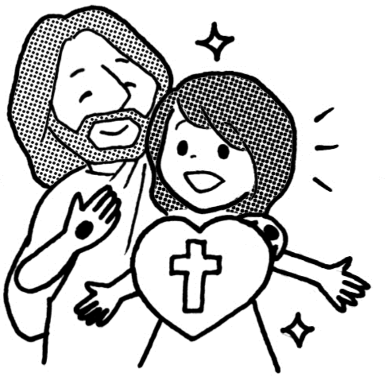
新年礼拝



聖　書	Ⅱコリント５・13～19
テーマ	キリストによる新創造
暗唱聖句	だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。　Ⅱコリント５・17
目　標	キリストを信じて新しく造られた者となる。

１月５日（日）

聖書　Ⅱコリント５・13～19

聖句　だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。　17節

今年最初の日曜日です。もう一度、「明けましておめでとうございます」。新しい年、新しい帽子、新しいセーター、新しい手袋に新しい靴、新しいマフラーと、何もかも新しいものを身につけると、新しい「ワタシ」になるのかな？ では肝心の『新しい心』にはどうしたらなれるの？ それは買うことはできません！ これまでの平気で罪を犯してきた心をおわびして、私の罪の代わりに十字架で死んでくださったイエス様を心にお迎えすると、新しい私の誕生です！

祈り　天のお父様、イエス様だけが、心を造り変えてくださり、罪を犯したくない新しい者にしてくださることを感謝します。

１月６日（月）

聖書　エペソ２・１～６

聖句　キリスト・イエスにあって、共によみがえらせ、共に天上で座につかせて下さったのである。　6節

したいと思う良いことができない、したくないと思う悪いことをしてしまう、これは心が罪によって死んでいるからなのですね。あわれみ深い神様は、大きな愛をもって、ひとり子イエス様を与えてくださいました。私たちが罪をおわびすると罪をゆるしてくださって、罪から救ってくださり、イエス様と共に生きる心と力をくださいます。今、よみがえって天におられるイエス様と同じように、私の心もよみがえらされて、天にいるような心で生きていけるのです。

祈り　天のお父様、罪と欲の思いの中で死んでいた私さえも、イエス様を信じて救われ、きよく生きられることを信じます。

１月７日（火）

聖書　エペソ２・７～10

聖句　わたしたちは神の作品であって、良い行いをするように、キリスト・イエスにあって造られたのである。　10節

作品を作るのが大好きな人がいるでしょう？ 上手に作れる人と‥‥うーんむずかしい、という人がいます。「実は、私たちひとりひとりは神の作品ですよ」とパウロが言うのです。神様が私を「神の作品」として造ってくださったなんて！「へぇ、私って、神様の作品なんだ」と考えてみてください。そうです。良い行いをするように、キリスト・イエスにあって造られた最高傑作なのです。イエス様を信じてはじめて良い行いができるのです。

祈り　天のお父様、私も、良い行いをするようにイエス様にあって造られた、最高傑作と知ってうれしくなります。

1月8日（水）

聖書 エペソ４・17～24

聖句 真の義と聖とをそなえた神にかたどって造られた新しき人を着るべきである。 24節

水遊びや雪遊びでぬれてしまった服とか、ころんで汚れてしまった服とかは、すぐに脱いで、きれいな服に着替えますよね。実は、心も着替えがいるのです。むなしい心とか、硬い心とか、がんこな心とか、欲深い心とか、こういう心をもつ人を「古い人」と言うのです。その古い人を「えいっ！」と脱ぎ捨てます。イエス様の十字架を仰いでね。そして、「イエス様の心」を「私の心」として生きる決心をするのです。それが、「新しい人」を着ることなのです。

祈り 天のお父様、ほんとうに心の底から、きよく新しく造りかえてくださるのは、イエス様だけだとわかりました。

1月9日（木）

聖書 Ⅰテサロニケ５・16～18

聖句 いつも喜んでいなさい。 16節

仮装行列って楽しいですね。ナースの服を着たり、ウエイトレスの姿になったりすると、何となく、その気になってしまいます。でもそれは外側だけです。イエス様のみわざは心の内側からなのですごいです。神様のかたちに、もう一度新しく造られた人、「新しい人」の姿を見ましょう。それは「キリスト・イエスにあって」のみできることなのですね。その人は、いつも喜んでいる人です。い・つ・も・ですよ！どんな時でもです。そんな人があなたのまわりにいるかな？ あなたにも、そうなってほしいです。

祈り 天のお父様、いつも喜んでいるということ一つだけ考えても、その人は本当に「新しい人」としか言いようがありません。

1月10日（金）

聖書 Ⅰテサロニケ５・16～18

聖句 絶えず祈りなさい。 17節

新しい人とは、「いつもお祈りをしている人」、「やめることなくお祈りをしている人」だ、ということです。お祈りは、「神様、私にはどうしていいかわかりません。教えてください。私には何の力もありません。どうぞ力を与えてください。助けてください」という心のあらわれです。古い人は、何でも自分の思うまま勝手にやって、罪ばかり犯してきました。新しい人はいつも何でもお祈りをして、神様のみ心がなるようにしていく人です。

祈り 天のお父様、あなたに喜ばれ、あなたのみ心が行われるために、もっともっとお祈りする者となりたいです。

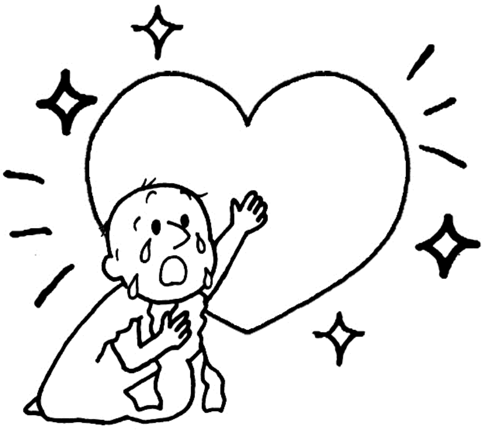
1月11日（土）

聖書 Ⅰテサロニケ５・16～18

聖句 すべての事について、感謝しなさい。 18節

カニがぶつぶつ泡を吹くように、よくぶつぶつ不平を言ったり、文句ばかり言う子どもはいませんか？ 自分もいやになるし、まわりの人もいい迷惑なのです。それは古い人の姿。しかし、新しい人とは、「すべての事について、感謝」する人なのです。す・べ・て・の・ことですよ！「えーっ!? そんなこと、本当にできるのかな？」と思いますか？ 神様はいつも私のために絶対に良いことだけをしてくださると信じていればできます。そして、人に対しても心から感謝できるようになるのです。

祈り 天のお父様、「ありがとう！」の一言が、いつも新しい人の心からあふれてくる言葉なのだとわかりました。



聖書	ヨブ 1・1～22
テーマ	試練の中の賛美
暗唱聖句	主が与え、主が取られたのだ。主のみ名はほむべきかな。　ヨブ 1・21
目標	試練をも神のなさることとして受け止め、神を賛美する者となる。

1月12日（日）

聖書　ヨブ 1・1～22

聖句　そのひととなりは全く、かつ正しく、神を恐れ、悪に遠ざかった。1節

今週はヨブという人のお話です。彼が生きた時代、彼が住む東の地方でいちばんのお金持ちでした。子どもは10人、しもべも大勢いました。羊やらくだなど、たくさんの家畜も飼っていました。

そんなお金持ちのヨブですが、お金を使いほうだいで、えらそうに生きていたわけではありません。神様を心から信じていて、神様の前で正しく生きる人でした。ヨブほど正しい人は、ほかにいませんでした。罪を犯すことがないようにしよう！といつも思いながら歩んでいたのです。

祈り　天のお父様、ヨブの正しい信仰をとおして、神様のみこころを教えてください。

1月13日（月）

聖書　ヨブ 1・1～5

聖句　ヨブは彼らを呼び寄せて聖別し、朝早く起きて、彼らすべての数にしたがって燔祭をささげた。　5節

ヨブの子どもたちも、当然お金持ち。息子たちは自分の家がありました。「さあ、ごちそうを作ったから家に食べにきてよ！」「それはいいねえ、じゃあ今度はわたしの家でごちそうを食べよう！」と、兄弟どうしで招待したり、招待されたり、毎日楽しい生活を送っていました。

ヨブはそんな子どもたちを呼び、神様の前に犠牲をささげ、お祈りをしました。「もしかしたら、子どもたちが罪を犯したかもしれない」と思ったからです。ヨブは、いつも家族のために祈る人だったのです。

祈り　天のお父様、わたしも、いつも家族のためにお祈りしていきます。

1月14日（火）

聖書　ヨブ 1・6～12

聖句　彼は必ずあなたの顔に向かって、あなたをのろうでしょう　11節

正しいヨブに、サタンが目をつけました。サタンがこっそり神様の前に来たとき、神様はサタンに言われました。「ヨブのように正しい人はいないことに気づいたか」。するとサタンは言いました、「それはヨブがお金持ちだからですよ。財産がなくなれば、かならず神様の悪口を言いますよ！」

そこまで言うサタンに、神様はヨブの財産を取りさることを許可しました。えっ!? と皆さんは思うかもしれないけど、あえて神様はヨブが試練にあうのを許されたのでした。

祈り　天のお父様、ヨブの財産を取りさることは、あなたの深いお考えがあったのだと信じます。

1月15日（水）

聖書　ヨブ 1・13～17

聖句　わたしはただひとりのがれて、あなたに告げるためにきました。　15節

サタンは、ヨブの財産や関わる人々にしのびよりました。ヨブのしもべたちは殺されてしまい、家畜は焼きほろぼされ、盗まれてしまったのです！ ヨブのしもべも財産もいっぺんになくなってしまいました！ 命からがら逃げてきたしもべたちが、そのようすを次々にヨブに話したのでした。ヨブはどんなにショックだったことでしょう…。

わたしたちは、つらいことがおこるとなかなか受けとめられないですね。シクシク泣いてばかりで、立ちあがれなくなることがあります。あなたはどうですか。

祈り　天のお父様、わたしはつらいことがおきたとき、受けとめる自信がないです。立ち上がる力をください。

1月16日（木）

聖書　ヨブ 1・18～21

聖句　主が与え、主が取られたのだ。主のみ名はほむべきかな。　21節

つらい試練が次々とおこるヨブに、いちばんつらいことがおきました。大きな風がふいて息子の家がつぶれてしまい、中にいた10人の子どもたちが死んでしまったのです。ヨブは悲しみのどん底につき落とされてしまいました。しかし、こんな悲しみのなかで彼はこう言ったのです。「わたしはなにも持たないで生まれました。そしてなにも持たずに死ぬのです。すべては主が与えてくださり、主が取りさられます。主のみ名をほめたたえます」。なんということでしょう！ つらい試練の中、ヨブから出てきたことばは、神様への心からの賛美だったのです！

祈り　天のお父様、わたしはつらいときに賛美ができるでしょうか。ヨブの信仰にならいたいです。

1月17日（金）

聖書　ヨブ 1・22

聖句　すべてこの事においてヨブは罪を犯さず、また神に向かって愚かなことを言わなかった。　22節

子どもたちも財産も、いっぺんに失ったヨブ。ふつうなら、あまりにもつらくて耐えられない状況です。しかし、ヨブは神様に文句ひとつ言わず、神様を賛美しました。

サタンは、ヨブがつらい試練にあえば神様の悪口を言い、罪を犯すと思い、ヨブにかかわるすべてのものを奪いました。なんとかしてヨブに罪を犯させようとしたのです。しかし、その悪巧みは大失敗に終わりました。ヨブの信仰は神様がみとめる本物の信仰でした。その信仰がサタンに勝利したのです！

祈り　天のお父様、試練のとき、わたしが罪を犯さないように、サタンに勝利できるようにお守りください。

1月18日（土）

聖書　ヨブ 1・1～22

聖句　主が与え、主が取られたのだ。主のみ名はほむべきかな。　21節

わたしたちは、つら～い試練のとき、「なんでこんなことになるの？」「神様どうして？」「もうイヤ！」と泣いて文句ばかり言ってしまいがち。そんなときは、ヨブの賛美を思い出してください。ヨブは、「自分に起こるすべてのことは神様が支配している、神様がなさることは間違いはない」と心から信じていたので、このようなすばらしい賛美をしたのです。

ヨブのように、良いときもつらい試練のときも関係なく、いつも神様を賛美することができたらすばらしいですね！

祈り　天のお父様、つらい試練のとき、わたしから出ることばが神様への賛美でありますように。

聖書	詩篇 1・1〜6
テーマ	実を結ぶ生涯
暗唱聖句	このような人は主のおきてをよろこび、昼も夜もそのおきてを思う。 詩篇 1・2
目標	悪から遠ざかり、み言葉に生きることにより、実を結ぶ者となる。

1月19日（日）

聖書 詩篇 1・2
聖句 このような人は主のおきてをよろこび、昼も夜もそのおきてを思う。2節

大きくなったらどんなふうになるのかな？ なにがあれば幸せでいられるのかな？ お金？ 宝石？ けっこん？ なんて考えたことはない？ 聖書には、幸せでいるためのこたえがぎっしり！ いちばんたいせつなのは、どんな人生を生きるかではなく、だれといっしょに生きていくかだって！ それは神様なんだよ。

あなたは神様といっしょに生きていますか？ 心の中を神様のみ言葉や愛や思いでいっぱいにしていますか？ こんしゅうも、神様の子どもらしいあなたでいてくださいね！

祈り 天のお父様、この新しい一週間もあなたといつもいっしょにすごせますように。いつもあなたを思っていられますように。

1月20日（月）

聖書 詩篇 1・1
聖句 悪しき者のはかりごとに歩まず、罪人の道に立たず、あざける者の座にすわらぬ人はさいわいである。1節

悪い人、罪人ってどんな人だろうね？ いつもおこられるようなことをする人？ いじわるする人？ おまわりさんにつかまっちゃった人？ いろんなこたえがあるね。

聖書がおしえる罪人はね、「神様を見うしなった人」「神様を神様と思わないで生きている人」のことなんだ。人は、悪いことをするから罪人になるんじゃなくて、罪をもって生まれ、神様を知らずに自分かってに生きるから罪人なんだ。みんなが神様におわびをして、神様の子どもにならなきゃいけないんだね。

祈り 天のお父様、みんなが罪をおわびして、あなたの子どもになれますように。

1月21日（火）

聖書 詩篇 1・1
聖句 悪しき者のはかりごとに歩まず、罪人の道に立たず、あざける者の座にすわらぬ人はさいわいである。1節

学校に行って、まわりのお友だちを見まわしてみて！ あなたはどんなお友だちにかこまれていますか？ 教会に行っている子、ほかにいる？ これから一生のあいだ、いろんな人にかこまれて、えいきょうされて生きていくよね。でも、気をつけないといけません。あなたが神様を見うしなうなんてかんたんなことなのです。はんたいに、神様を知っているあなたが、人にえいきょうをあたえ、いっしょに神様を信じるお友だちになれることも知っておいてね！

祈り 天のお父様、あなたを知らない人の中で、えいきょうされるだけでなく、えいきょうする人になれますようにカをください。

1月22日（水）

聖書 詩篇 1・3
聖句 このような人は流れのほとりに植えられた木の時が来ると実を結び、その葉もしぼまないように、そのなすところは皆栄える。 3節

お花や野菜をそだてたことがありますか？ きれいなお花やおいしい野菜ができるためには、まいにちお水やひりょうをあげたりするよね。ところが、お水やひりょうをあげないお花や野菜は、枯れたり、元気がなくなってしまいます。神様はね、あなたがすばらしい人生をすごせるようにそだて、えいようをくださるお方！ まいにち神様といっしょに生きるとき、元気をもらって、ついにはきれいなお花やおいしい野菜よりもすばらしい実が、心に実るよ！

祈り 天のお父様、あなたがわたしをそだててくださることを感謝します。

1月23日（木）

聖書 詩篇 1・4
聖句 悪しき者はそうでない、風の吹き去るもみがらのようだ。 4節

神様を知らない人の人生のことを、聖書は「もみがらのようだ」って言ってるよ。りっぱで、おしごともお金もなんでもありそうな、そんな人も、心の中をのぞいてみるとき、いちばんもっていないといけないものが「ない」ということに気づくのです！
それは、「えいえんの命」！
あなたはどうですか？ 今、どんな人生をあゆもうと思っていますか？ どうか、もみがらのような人生ではなく、なくてはならない「えいえんの命」をもらう人生を歩んでください！

祈り 天のお父様、なかみをのぞいたら「命」がないもみがらのような人生ではなくて、「えいえんの命」をもつ人生を歩ませてください。

1月24日（金）

聖書 詩篇 1・5
聖句 それゆえ、悪しき者はさばきに耐えない。罪びとは正しい者のつどいに立つことができない。 5節

聖書では、正しい人と罪人のさいごをはっきりとわけています。神様を知っているのに知らないふりをする人、こまったときだけ「神様！」と名まえをつごうよくよぶ人も、天国の前では「あなたのことは知らないよ」と言われるほどきびしいのです。
だからこそ、いつも神様からはなれないですごし、あなたが神様にしたがえるようにと、聖書があるんだよ。まいにち聖書をよもうね！

祈り 天のお父様、つごうよくあなたの名まえをよぶのではなく、いつかくる「さばき」にそなえて、いつもみ言葉をきき、あなたにしたがう子どもにしてください。

1月25日（土）

聖書 詩篇 1・6
聖句 主は正しい者の道を知られる。6節

神様を信じていること、教会に行っていることをだれかにバカにされたり、みとめてもらえなかったこと、いっしょうけんめい信じているのにどうして？ と思うことはありませんか？ そんな人はよろこぼう！ だって、あなたが神様のためにしたぜんぶのことは、神様が知っていて、みとめてくれて、ぜんぶおぼえておられるんだから！
やがて、天国に行くとき、だれもわかってくれず、みとめなかったこと、神様が「よくやったね、えらかったね！」とほめてくれるよ！

祈り 天のお父様、この人生でみとめられなくても、あなたの前ではぜんぶおぼえられていることを感謝します！

聖書　詩篇 23・1〜6
テーマ　主はわたしの牧者
暗唱聖句　主はわたしの牧者であって、わたしには乏しいことがない。　詩篇 23・1
目標　主を牧者として生きる生涯の幸いを味わう者となる。

1月26日（日）

聖書　詩篇 23・1
聖句　主はわたしの牧者であって、わたしには乏しいことがない。　1節

みんな知ってるモコモコの羊さん。げんきで生きていくには飼い主さんのおせわがとてもたいせつなんだよ。

だって、毒草やきれいなお水を見分けられなくて死ぬこともあるし、草をさがしてまいごになるし、ひっくりかえったらもうおきあがれないし、こわがりで弱くてオオカミやクマに食べられることも!! でもね、羊さんのいいところは飼い主がだれかをちゃ〜んと知ってるとこ！

じつは人間も、神様のおせわがなければ死の道に向かってしまう羊とおんなじ！ あなたは神様が飼い主だって、ちゃんと知ってますか？

祈り　天のお父様、あなたの守りとおせわがないと生きていけない、羊と同じわたしです。今週もどうか助けてください。

1月27日（月）

聖書　詩篇 23・2
聖句　主はわたしを緑の牧場に伏させ、いこいのみぎわに伴われる。　2節

羊飼いは、いつも羊さんの安全と安心のためにいっしょうけんめいはたらきます。

羊も、羊飼いが守ってくれて、虫やオオカミがいないばしょだとわかると草むらでごろごろできるし、羊飼いがキレイなお水があるところにつれて行ってくれるから元気なんだって。

神様が「こっちだよ」「こうしなさい」と聖書の中からおしえるとき、それは、罪の草むらにねそべったり、悪の水をのんでしまわないように、守ってくれてるってことだよ！

祈り　天のお父様、あなたがおしえてくださる一つ一つの言葉は、わたしたちの安心と安全のためにあることをありがとうございます。その言葉の方向にすすめますように。

1月28日（火）

聖書　詩篇 23・3
聖句　主はわたしの魂をいきかえらせ、み名のためにわたしを正しい道に導かれる。　3節

羊飼いは、自分の羊たちをとっても大事にします。たとえ1匹だって、失いたくありません。ときには、まいごになったり、穴におちる羊もいますが、そんなときは自分もきけんだとわかっていてもいっしょうけんめい探すのです！

神様は、ときどき罪の穴におちてどうしようもないわたしたちのことも放っておかれません。なんとかして救いだし、神様のよろこぶ人生を生きてほしいと、イエス様を身代わりにしてまで魂をいきかえらせてくださるんだね。

祈り　天のお父様、なにがあってもわたしのことを救いたいとねがっていてくださること、そして身代わりのイエス様を感謝します。

1月29日（水）

聖書　詩篇 23・4

聖句　たといわたしは死の陰の谷を歩むとも、わざわいを恐れません。あなたがわたしと共におられるからです。
4節

　自分のいのち、たのしくてかんたんにゴールまでいけたらいいなあって思うよね？ だけど、生きてるんだもの、そんな楽にはいかないね。ときには、つらくかなしいこと、くるしいこともあるでしょう。でもわすれないで！

　あなたの飼い主、神様はどんなときも、あなたを見はなさず、見すてないこと！ 神様がいつもいっしょにいてくれるからぜったいだいじょうぶなんだ！ たとえ死がおそってきても！

祈り　天のお父様、自分で死に勝つことはできないけれど、あなたはそんなときにもいっしょにいてくださるのですね。感謝します！

1月30日（木）

聖書　詩篇 23・4

聖句　あなたのむちと、あなたのつえはわたしを慰めます。　4節

　羊飼いは、いつもつえとむちを持って、羊といっしょに歩くんだって！ 羊をいじめるため？ いいえ！ 野原には、ヘビなどあぶない生き物がでるでしょう？ 羊飼いは、自分を守れない羊のかわりに、むちやつえでたたかってくれるんだ！ あと、道がくらくて不安なとき、つえでさわられると安心するんだって！

　神様は、罪や悪魔に、自分の力で勝てないわたしたちのことをよく知っておられるね。だからこそ、神様の力やたすけをもらって生きているんだよ！

祈り　天のお父様、わたしが罪や悪魔から守られているのは、あなたのつえとむちがあるからですね。あなたにもっとたよります！

1月31日（金）

聖書　詩篇 23・5

聖句　あなたはわたしの敵の前で、わたしの前に宴を設け、わたしのこうべに油をそそがれる。わたしの杯はあふれます。　5節

　自分をおそってくる敵が目の前にいたら、ごはんどころじゃないよ！って思う？ でも、神様の守りと強さはカンペキ！ だからこそ、「だいじょうぶ！ 安心しなさい。あなたを祝福するよ！ わたしが力づけてあげよう！」と、敵がいるときにもあなたのおせわをできるのです。

　敵がいなくなるわけではないけれど、神様にたよりきっている人はつよくいられるんだ！ 神様の祝福があふれるあなたでいてね！

祈り　天のお父様、たとえ敵が目の前にいても、あなたによってつよくいられますように。あなたの祝福がわたしにもあふれますように！

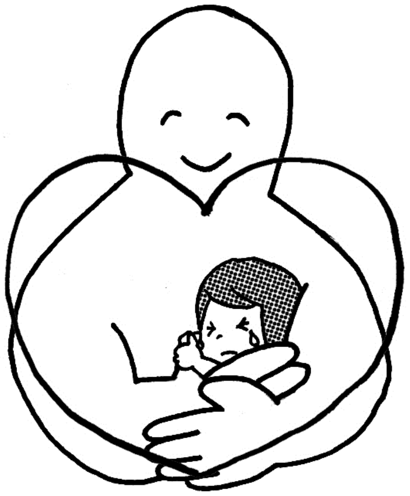
2月1日（土）

聖書　詩篇 23・6

聖句　わたしはとこしえに主の宮に住むでしょう。　6節

　罪においかけられている人の人生のゴールは、とても悲しいものです。その人たちは、自分がどこに行くのかもわからないで生きているのです。でも、神様を信じているあなたは、はっきりとした答えがあるよね？ あなたのゴールは？ そう、天国！ たとえ、生きているときに成功したように見えなくても、どんなときも神様の恵みにおいかけられているなら、天国という、すばらしいゴールにたどりつくんだよ！ これからも神様といっしょに生きていこうね!

祈り　天のお父様、わたしにも、天国というはっきりしたゴールを見せてくださりありがとうございます。これからもあなたといっしょに生きていきます。



聖　　書	詩篇 46・1〜11
テ ー マ	避け所なる神
暗唱聖句	神はわれらの避け所また力である。悩める時のいと近き助けである。　詩篇 46・1
目　　標	困難や試練の中で、神を避け所とし、神に近づく者となる。

2月2日（日）

聖書　詩篇 46・1

聖句　神はわれらの避け所また力である。悩める時のいと近き助けである。
1節

今、日本には、べんきょうのこと、おうちのこと、友だちや会社の人とのこと、色んなことで心がつかれて、いつも「あぁ、どこかににげたいなあ」って思う人があふれています。自信も生きる元気もなくなって、「もう死んじゃおう」って「死」の中ににげる人も…。

でもね、あなたがにげる場所はちゃんとあるんだよ。もし、あなたが神様のところへにげるなら、神様があなたのかくれ場になり、助けになり、力になられることをわすれないでね！

祈り　天のお父様、色んなことでつかれて、どこかににげたくなるときには、あなたのところににげます。力をください。

2月3日（月）

聖書　詩篇 46・2〜3

聖句　このゆえに、たとい地は変り、山は海の真中に移るとも、われらは恐れない。
2節

地震につなみ、台風やたつまき、日本でもいつなにがおきるかわからなくて、にげるじゅんびをしたりこわがっている人がふえてきたね。

でも、ちょっとまって！ そういうじゅんびも大切だけど、もっと大切なじゅんびもあるよ！

いつなにがおきるかわからない日本、人間にはどうしようもないことがおきるからこそ、今から「永遠の命」をしっかりもって神様にぜ〜んぶおまかせしておくんだよね！

祈り　天のお父様、「永遠の命」のやくそくを感謝します！ こんなじだいだからこそ、安心してわたしをまるごとおまかせします。

2月4日（火）

聖書　詩篇 46・4

聖句　一つの川がある。　4節

わたしたちの体の60パーセントくらいは水でできてるっていうくらい、水って大切！ 水は命！ でも、いつものむ水はしょうどくしないとのめなかったり、かれたり、よごれたりするね。

何があってもかれない、よごれない水、それは神様のところにあるよ！ その水にはわたしたちの心にない、本当の命や、愛や、ゆるしや、喜びや、安心や、希望や、勇気や、悪魔に勝つ力も入ってるんだ！

そんな水、ほしいでしょう？ どうしたらのめるかな？ 神様のみ言葉をじ〜っくりよんでお祈りするうちにわかってくるよ！

祈り　天のお父様、あなたのくださる水をわたしものんで、わたしの心にないたくさんのものを、もつ人になりたいです。

2月5日（水）

聖書　詩篇 46・5～6

聖句　神は朝はやく、これを助けられる。　5節

昔ね、イスラエルが、大きくて強いアッスリヤ軍に囲まれてもうやっつけられそう、ってときがあったの。「もうあきらめろ」「降伏しろ」「神なんか信じるな」「お前の神なんかに何ができる」って言われる中で、イスラエルの王様ヒゼキヤは、ただ神様を信じて心のそこからお祈りしたんだ。

次の日の朝早くおきて外を見たら、18万5千人もいたアッスリヤの兵士たちはみんな死んでいた。神様がそうなさったんだ！

だからあなたも、ぜったいあきらめないで！暗い夜はあけて、よろこびの朝がやってくるよ！

祈り　天のお父様、つらく苦しいできごとの中でもあきらめないで祈って、すばらしい朝をむかえたヒゼキヤのようになりたいです。

2月6日（木）

聖書　詩篇 46・8

聖句　来て、主のみわざを見よ　8節

お祈りしない、教会に行かない、聖書のおはなしも聞かない、それでいて「神様信じてるよ」なんて言っても、ぜんぜんなっとくできないね。じゃあ、それでどうやって神様の気もちや神様のなさることがわかるの？って思うよ。

神様は、あなたをつくり、あなたを愛し、いつもいっしょにいたいとねがってくださるけれど、あなたの方が、神様をとおざけたり、はなれていたらもったいない！

ちゃんと神様の近くにいて、神様がわたしたちにしてくださった救いのわざ、毎日のめぐみのわざを見ようよ！

祈り　天のお父様、ちゃんとあなたのわざの見えるところにいることができますように。あなたからはなれることがありませんように。

2月7日（金）

聖書　詩篇 46・10

聖句　静まって、わたしこそ神であることを知れ。　10節

教室で、先生が「静かにね」と言ってほんの少しいなくなったら、どうだろう？ きっとみんなザワザワしはじめ、そのうちわらったり、あそんだり、ケンカまではじまるね。でもそこに先生がかえってきたら一気に「シ～ン」となるでしょう！

この世界も色んなことでザワザワしています。だれがエライとか、だれが本物だとか、だれが強いとか！ でも、みんな一気にシ～ンとなって「このお方こそ神様だ！」と言う日が来るよ。

祈り　天のお父様、このザワザワした世界の中でも、心をしずかにしてまちます。あなたがただ一人の神様だとわかるその日まで。

2月8日（土）

聖書　詩篇 46・11

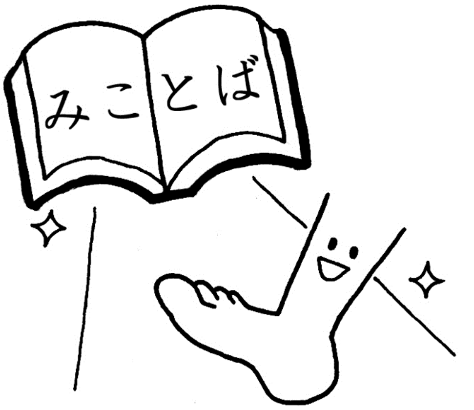
聖句　万軍の主はわれらと共におられる。ヤコブの神はわれらの避け所である。　11節

人間の手で作った、見えるけれど動くこともはたらくこともできないものを神様と言いなさいって言われても、信じられないよ。

でも、わたしたちの神様はちがう！ 目には見えなくても、この世界をつくり、わたしたちをつくり、わたしたちの知らない昔から、やがて世界がおわるときまでずっとかわらないお方。

苦しいとき、悲しいときにもいつもそばにいてくださって、心からあなたを愛し、あなたにいちばん良いことをしてくださる神様がいっしょだということをわすれないでね！

祈り　天のお父様、目には見えなくてもいつもあなたがいっしょにいてくださって感謝します。



聖　書	詩篇 119・105～112
テーマ	み言葉に導かれる生涯
暗唱聖句	あなたのみ言葉はわが足のともしび、わが道の光です。　詩篇 119・105
目　標	み言葉に導かれて歩みを進める者となる。

2月9日（日）

聖書　詩篇 119・1～5

聖句　あなたのみ言葉はわが足のともしび、わが道の光です。　105節

まっくらやみに一人ほうりだされたあなた、さあ、どんな気もちでしょう？ きっと小さなライターの光でもいいからほしいと思うはず！ 人生にも「どうしよう、どっちにすすめばいいの？」となやみ、苦しむときがかならずあるんだ、まるでまっくらやみにいるみたいに。

でもね、そんなとき聖書を読んでみて。み言葉は、あなたの立っている場所も、これからどこに向かってすすめばいいかもぜんぶ知ってるよ。そして、あなたが信じるとき、行くべき道がわかるようになるからね。

祈り　天のお父様、人生でこまったときにもみ言葉をください。み言葉が、わたしの行くべき道をてらすともしびになりますように。

2月10日（月）

聖書　詩篇 119・6

聖句　わたしはあなたの正しいおきてを守ることを誓い、かつこれを実行しました。　6節

江戸時代、この日本でも、神様を信じていた人たちが、神様を信じることを禁止されたり、ひどい目にあったりしました。でも、神様を信じることや、したがうことをやめませんでした。

だって、この神様が本物で、わたしたちをつくり、愛し、罪をゆるし、命よりたいせつなイエス様をくださったのを知っていたから。

そんなとき、自分がなにをいちばんたいせつにし、信じているかがテストされますね。

祈り　天のお父様、わたしも、あなたをどんなときも信じてしたがいたいです。あなたをたいせつにしていきたいです。おまもりください。

2月11日（火）

聖書　詩篇 119・7

聖句　主よ、み言葉に従って、わたしを生かしてください。　7節

あなたの心の中をのぞいて！ いつも神様といっしょですか？ 神様のおやくそくをいくつおぼえていますか？ 神様にしたがいたかったのに、ぜんぜんできてなかったってことはない？ しっぱいしたり、神様がよろこばないことをしたりしたときにどうしているだろう？

でもね、神様の方は、いつもうそをつかない！ あなたを愛し、あなたの人生をすばらしいものにしたいって思ってるよ！ そして、み言葉のとおり、イエス様の十字架の力であなたを永遠に生かしてくださるお方だよ。

祈り　天のお父様、どんなときにも、あなたのみ言葉は本物です。永遠の命のやくそくをありがとうございます。

2月12日（水）

聖書　詩篇 119・108

聖句　主よ、わがさんびの供え物をうけて、あなたのおきてを教えてください。　108節

いつもうれしそうに教会に行って、よろこんで神様のためにはたらく人と、教会に必死で行ってるのにいつもつらそうで、イヤイヤ献金したりはたらいている人、どちらが神様によろこばれるかなあ？ わかるよね！

そう、神様は、信仰が「見た目」か「心」かお見通しなんだ。もし、あなたが心から神様を信じ、よろこんでしたがうなら、神様もよろこんでこたえてくださるよ。でも、もしそうじゃなかったら、心から神様にごめんなさいとおわびして、ゆるしていただこう！

祈り　天のお父様、いつも心までお見通しのあなたに、よろこんで信じ、したがう子どもにしてください。

2月13日（木）

聖書　詩篇 119・109

聖句　わたしのいのちは常に危険にさらされています。　109節

「命がけ」ってわかる？ 死んでもなにかを守ったり、たたかったりするってことだよね。

大人の人たちは色んなことに命がけになってるけど、その中でも意味のあることと、そんなことに？ っていうこともあるよ。

イエス様はね、自分が苦しむとしても、神様のために命がけだったね。そして、わたしたちを愛して、とうとう命をすてられたね。イエス様にはいつでも命をすてるかくごがあったんだ。神様とわたしたちのためにね。

祈り　天のお父様、どうせ命がけになるなら、意味のないことでなく、あなたと人のために命がけになったイエス様みたいになることがいちばん意味があると思いました。

2月14日（金）

聖書　詩篇 119・110

聖句　悪しき者はわたしのためにわなを設けました。しかし、わたしはあなたのさとしから迷い出ません。　110節

聖書のおはなしを聞くとき、イエス様のことを思うとき、なんだか勇気がわいてくるよね！

悪魔はいつも、あなたが神様からはなれるようにわなをしかけてくるでしょう。教会に行くよりお出かけしようよ、自分かってにした方が楽しいよ、み言葉なんて思い出さなくていいよ、とかね。でもね、おぼえておいてください！

あなたを悪魔のわなから守ってくれる武器はたった一つ。それは、聖書の言葉！ イエス様も、悪魔のわなに聖書の言葉で勝ったんだよ。

祈り　天のお父様、悪魔のわなにひっかからないで、聖書の言葉の武器で勝っていけるようにお守りください。

2月15日（土）

聖書　詩篇 119・111～112

聖句　あなたのあかしはとこしえにわが嗣業です。まことに、そのあかしはわが心の喜びです。　111節

あなたのいちばんのたからものってなあに？ おにんぎょう？ ３DS？ おもちゃ？ かぞく？ それとも自分？ いろんなたからものがあると思うけれど、どれもいつかはこわれたり、なくなるね。

でも、神様のことばとやくそくは永遠に消えないたからもの、財産だって、聖書は教えているよ。そして、それをあなたはもう、持っているんだ。神様の愛、イエス様の十字架、永遠の命…ぜったい手ばなしちゃいけないよ！

祈り　天のお父様、いつか消えてなくなるたからものでなく、永遠に消えないたからものを持っていることをありがとうございます。ぜったい手ばなしません！

聖　書	マタイ 16・13～20
テーマ	キリストへの信仰告白
暗唱聖句	あなたこそ、生ける神の子キリストです。マタイ 16・16
目　標	イエス・キリストへの正しい信仰を告白する者となる。

2月16日（日）

聖書 マタイ 16・13～20

聖句 あなたこそ、生ける神の子キリストです。　16節

「わたしはだれでしょう？」と、イエス様の質問です。「人々はわたしのことをだれと言っているのか」と弟子たちに尋ねました。彼らの口からいろんな答えが返ってきます。「バプテスマのヨハネ」、「エリヤ」、「エレミヤ」、「預言者のひとり」。イエス様は次に弟子たちの方を見つめて、「では、あなたがたはわたしをだれと言うか」と尋ねると、シモン・ペテロが答えます。「あなたこそ、生ける神の子、キリストです」と。「正解！」 イエス様は満足されました。

祈り 天のお父様、ペテロのように、私も「イエス様こそ生ける神の子、キリストです」と、心より信じて告白します。

2月17日（月）

聖書 マタイ 16・13

聖句 イエスがピリポ・カイザリヤの地方に行かれたとき、弟子たちに尋ねて言われた、「人々は人の子をだれと言っているか」。　13節

イスラエルに詳しい人から聞きました、「ピリポ・カイザリヤはね、川がはじまる所で、ちょうど水が分かれる所にあるんだ。その場所でイエス様は大切な質問をしたんだよ」と。つまり、最初は同じ場所であっても、そこから、正反対に水が流れていくと、行き着く先は大きく違ってしまいます。イエス様は立派な預言者ですか？ 人間ですか？ それとも神ですか？ 私たちは、イエス様を「生ける神の子、救い主」と信じて、救いの道を歩みましょう。

祈り 天のお父様、とても大切な信仰の告白「イエス様は神の子、救い主」と信じ告白させてくださり、感謝しています。

2月18日（火）

聖書 マタイ 16・14～16

聖句 それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか。　15節

バプテスマのヨハネと言えば、イエス様より半年お兄さんで、イエス様のために道を備えた「人間」でした。エリヤは大いなる奇跡の数々を行い、偶像崇拝者と大胆に対決した預言者、つまり「人間」でした。エレミヤも涙の預言者、他の預言者たちもみんな「人間」でした。どんなに神様に用いられてもね。そこでイエス様は、弟子たちに、また今日、あなたにも尋ねられますよ。ペテロと一緒に「あなたこそ、生ける神の子キリストです」と、告白しましょう。

祈り 天のお父様、イエス様は他のどんな人間とも違う「神の子キリストです」とハッキリと信じ、告白します。

2月19日（水）

聖書 マタイ 16・15〜16

聖句 シモン・ペテロが答えて言った、「あなたこそ、生ける神の子キリストです」。 16節

さすがペテロさん！ バッチリ、100%正解の答えでした。イエス様は、きっと内心ドキドキだったことでしょうね。まちがってはいけません。神様は生きておられます。その御子イエス様も、十字架にかかられましたが、三日目によみがえられて、生きておられます。いつもわたしと共に歩いていてくださいます。そして「キリスト」、「油注がれたメシヤ」、「救い主」なのです。ですから、わたしたちを罪から救ってくださるとともに、毎日、救い続けてくださるのです。

祈り 天のお父様、今は私たちの目には見えませんが、イエス様が毎日共におられる、生きておられる救い主と信じます。

2月20日（木）

聖書 マタイ 16・17

聖句 あなたにこの事をあらわしたのは、血肉ではなく、天にいますわたしの父である。 17節

100%正解の答えをしたペテロさんに、イエス様は言われました。「バルヨナ・シモン、あなたは恵まれた、さいわいな人だよ。あなたにこの大切な100%正解の答えをあらわしてくださったのは、どんな人でもない。また、あなた自身から出たものでもない、実は、天におられるわたしの父なる神様が教えてくださったことですよ」と。ちょっと得意顔だったペテロさんもそう言われて、「そうだ、そうだよな」って、うなずいて父なる神様に心から感謝したのでした。

祈り 天のお父様、あなたはいつも私たちの心を開いて、大切なことを教えてくださいますから本当に感謝です。

2月21日（金）

聖書 マタイ 16・18

聖句 わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう。 18節

イエス様はつづいて大切なことをシモンに言われています。「あなたはペテロ(岩)だよ。そして、わたしはあなたが告白した信仰という岩の上に、わたしの教会を建てるよ」と。イエス様の教会の土台は「この岩」です。つまり、「イエス様は生ける神の子キリストです」という信仰の告白なのですね。そう信じてバプテスマを受ける人たちの集まり、それが教会です。その教会には黄泉の力も打ち勝つことはできないのです。何と心強いことでしょうか！

祈り 天のお父様、イエス様を「生ける神の子キリスト」と信じ告白する教会がいかに強いものかよくわかりました。

2月22日（土）

聖書 マタイ 16・19

聖句 わたしは、あなたに天国のかぎを授けよう。 19節

かぎの中のかぎ！ それが「天国のかぎ」でしょう。イエス様を「生ける神の子キリストです」と信じ告白する人は、天国のかぎが与えられ、やがて、天国に入れてもらえるのですね。そればかりでなく、今も天国のかぎを自由に使って、天国の祝福をふり注いでもらうことができるのです。それが「お祈り」という天国のかぎです。あなたはよくお祈りをする子どもですか？お祈りをすれば、生きておられる神様ですから、必ずこたえてもらえるのです。

祈り 天のお父様、すばらしい天国のかぎ（お祈り）を用いて、もっともっと天の祝福を注いでもらえますように。

聖書	マタイ 16・21～26
テーマ	十字架を負う生涯
暗唱聖句	だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。　マタイ 16・24
目標	十字架を負いつつ、キリストに従う者となる。

2月23日（日）

聖書　マタイ 16・21～26

聖句　だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。14節

一年で一番寒い季節、私たちは二月と三月でイエス様のきびしい十字架への道を見ていきます。「イエス様、ありがとう」「イエス様についていきます」という気持でね。イエス様についていきたいと思うなら、「自分を捨て、自分の十字架を負うて」イエス様に従っていくのです。今まで自分のことしか考えられなかったのに、イエス様の愛がわかると、もう自分のことよりもイエス様のことばかり考えるようになり、苦しみも耐えられるから不思議！

祈り　天のお父様、私の罪の身代わりのイエス様の十字架を思えば、私も自分の十字架を負う勇気と力がわいてきます。

2月24日（月）

聖書　マタイ 16・21

聖句　この時から、イエス・キリストは、…弟子たちに示しはじめられた。21節

何にでもきっかけとかチャンスとかありますよね。小学校一年生になったからとか10才になったからとか、あの映画を見て感動してからとか。ここでイエス様は、「この時から」弟子たちに、ご自分がエルサレムへ行って、多くの苦しみを受けて、殺され、そして、三日目によみがえるという、とても大切なことを示しはじめられました。「この時」とは？ そう、ペテロが重大で100％正解の告白をした時からです。「もう大丈夫」と主は思われたのでしょう。

祈り　天のお父様、大切な事を知らせていただけるには、ちゃんとした信仰をもたなければいけないことを知りました。

2月25日（火）

聖書　マタイ 16・22～23

聖句　イエスは振り向いて、ペテロに言われた、「サタンよ、引きさがれ」。23節

「何ですって?! イエス様が苦しめられる？ 殺されるですって?! 長老、祭司長、律法学者たちから？」 ペテロは思わず、「ちょっと、イエス様、こちらへきてください。そんなことがあってはいけませんよ、とんでもないことですよ」とイエス様をつかまえて言いました。するとイエス様のきびしいお顔とビックリするようなお言葉！ 「サタンよ、引きさがれ。わたしの邪魔をする者！ 神のことを思わないで、人のことを思っている」と。ほめられたあとにね。

祈り　天のお父様、たとえ一番弟子のペテロでもあなたのご計画を邪魔するなら、「サタン」と同じとわかりました。

2月26日（水）

聖書　マタイ16・24～25

聖句　わたしのために自分の命を失う者は、それを見いだすであろう。25節

イエス様の歩まれた道、イエス様の生き方を考えてみると、このみ言葉がよくわかってきます。「自分の命を救う」とは自分のことばっかり考えていること。「自分の命を失う」とは自分のことは二の次にしてイエス様のことを第一に考えることです。イエス様は父なる神様のお心を大事にして、いつもご自分の命を失う道を歩かれました。この世に来てくださり、十字架でご自分の命を捨ててくださいました。そしてついに！ 神様のみ力によって、みごとに最高の命を得られたのです！

祈り　天のお父様、イエス様のように、どうしたら自分の命を失って、そしてまことの命を得ることができるか、いつも教えてください。

2月27日（木）

聖書　マタイ16・26

聖句　たとい人が全世界をもうけても、自分の命を損したら、なんの得になろうか。　26節

あれもほしい、これもほしい、世界中のぜ～んぶがぼくのものになるといいな！ でも、もしそうなったとしても死ぬ時はひとりで、裸で死んでいきます。なんにも持ってはいけません。死んで、その先が重要です。神様がくださる新しい永遠の命、イエス様の十字架により罪をゆるして新しくいただく滅びない命のことなんか、全然考えなかったら、完全に自分の命を損してしまいます。大変！ 全世界より重い大切なあなたのたった一つの命は大丈夫ですか?!

祈り　天のお父様、欲ばりな心で、一番大切な命を失ってしまいませんように。永遠の命をいただいて歩ませてください。

2月28日（金）

聖書　マルコ8・31～38

聖句　それから群衆を弟子たちと一緒に呼び寄せて、彼らに言われた。　34節

お弟子のマタイさんだけでなく、マルコも福音書の中に、この大切な場面について記しています。マルコはイエス様の弟子ペテロの話したことを記したと言われています。ここにはイエス様が「群衆を弟子たちと一緒に呼び寄せて」とあるのに驚きます。お弟子さんたちだけに、このきびしい弟子としての生き方を話されたのかと思っていたら、そばにいた群衆にもおっしゃったのです。ですから、本当にイエス様についていきたい人すべてのためです。

祈り　天のお父様、だれであっても、イエス様に従いたい人は、自分を捨てて十字架を負うべきだとわかりました。

3月1日（土）

聖書　ルカ9・18～27

聖句　自分を捨て、日々自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。23節

お医者さんだったルカも、この同じ場面を描いています。この中で注目する言葉は、「日々」という言葉ですね。何かイエス様に従うのに、特別な時だけ、十字架を負うのではありません。「毎日、毎日、一日、一日、来る日も、来る日も、きょうも、明日も」、つまり、『日々』なのですね。イエス様を信じているからやってくる苦しいことや、いやなこと、恥をかくことに、日々、喜んで耐えて、ただイエス様についていくのです。命を得ていく道です。

祈り　天のお父様、私もどこまでもイエス様についていきたいです。日々、自分の十字架をしっかり負わせてください。

聖書	マタイ 17・1〜8
テーマ	キリストを見、キリストに聞く
暗唱聖句	これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である。これに聞け。 マタイ 17・5
目標	キリストに目を留め、キリストに聞き従う者となる。

3月2日（日）

聖書 マタイ 17・1

聖句 イエスはペテロ、ヤコブ、ヤコブの兄弟ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。 1節

皆さんは、山に登ったことがありますか？ 聖書をよ～く読むとわかるんですが、イエス様はたくさん山に登っておられるんです。お祈りするときや大切なことがあるとき、イエス様は山に出かけました。

今回はイエス様は高い山に登られるようですよ。おともするのはペテロ、ヤコブ、ヨハネの３人だけ。「自分たちだけが選ばれた！」と３人はきっとルンルン気分だったでしょう。神様からの大切なメッセージがあるにちがいありません。もう、ドキドキ！！

祈り 天のお父様、高い山での神様のメッセージを楽しみに聞きます。わたしの心を開いてください。

3月3日（月）

聖書 マタイ 17・1〜2

聖句 彼らの目の前でイエスの姿が変り、その顔は日のように輝き、その衣は光のように白くなった。 2節

高い山に登ったイエス様と弟子たち。イエス様はなにをするのかな？ と弟子たちが考えていたら、なんと、弟子たちの目の前でイエス様の顔と着ている服が光りだしたのです！ パーッキラキラキラッ！！ 太陽のように光り輝くイエス様！ 見ていた弟子たちは、あまりの驚きにことばもでません。

イエス様になにがおきたの？ と思いますね！ でも、光り輝くお姿こそ、神の子イエス様の本当のお姿。イエス様は、ご自分が本当に神の子であることを見せてくださったのです。

祈り 天のお父様、イエス様が本当に神の子だと教えてくださり感謝します。

3月4日（火）

聖書 マタイ 17・1〜3

聖句 すると、見よ、モーセとエリヤが彼らに現れて、イエスと語り合っていた。 3節

輝くイエス様だけでも驚きなのに、さらに驚くことが起こりました。光の中で、なんと、旧約聖書に出てくるモーセとエリヤがイエス様とお話していたのです！ なにを話していたかというと、イエス様がこれから十字架にかかられることについて話していたのです（ルカ 9・31 も読んでみてね）。

イエス様は、旧約の時代から預言されていた救い主。光り輝く神の子であられるのに、わたしたちの罪のみがわりに十字架にかかってくださったのです。

祈り 天のお父様、神の子イエス様がわたしのために十字架にかかられたことを心から感謝します。

3月5日（水）

聖書　マタイ 17・1～4

聖句　主よ、わたしたちがここにいるのは、すばらしいことです。　4節

輝くイエス様とモーセとエリヤ。見ていたペテロはこう言いました。「イエス様！ ここにわたしたちがいることはすばらしいことです！ イエス様とモーセとエリヤのために一つずつ小屋をたてましょう！」…もう、ペテロったらなに言ってんの～！ と思うけど、それほど驚いていたのです。このことはペテロにとって、けっして忘れられない出来事となったのでした。

イエス様が復活されたのち、「わたしはすばらしいことを見た！」とペテロは多くの人に伝えました。ペテロが書いた第二ペテロ１章に、そのときのことがしっかり書かれていますよ。

祈り　天のお父様、わたしもペテロのようにイエス様のすばらしさを伝えていけますように。

3月6日（木）

聖書　マタイ 17・1～5

聖句　輝く雲が彼らをおおい、そして雲の中から声がした、　5節

驚いたペテロがまだ話をしているとき、今度は雲がモクモクとあらわれました。ただの雲じゃない、光り輝く雲です！ 雲はイエス様とモーセ、エリヤをつつみこみました。そして、なんと雲の中から神様の声が聞こえてきたのです！ ペテロたちは恐れのあまり、ブルブルふるえながらひれ伏し、神様の声を聞いたのでした。

わたしたちにとって、神様の声を聞くときは聖書のみことばを聞くときですね。いつもどんな姿勢で聞いているでしょう。ブルブルふるえることはなくても、いつも真剣な姿勢で！ みことばに耳をかたむけたいですね。

祈り　天のお父様、みことばを聞くときは、いつも真剣に耳をかたむけていきます。

3月7日（金）

聖書　マタイ 17・1～6

聖句　これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である。これに聞け。　5節

光り輝く雲の中から聞こえた声は、「これはわたしの愛する子。わたしの心にかなう者である。彼の言うことを聞きなさい」というものでした。イエス様は、父なる神様が愛する神の子。父なる神様の喜び。イエス様のことばに耳をかたむけ、従いなさい！と父なる神様ご自身が言われたのです。

イエス様は、父なる神様がつかわされた救い主。イエス様に従うことは、父なる神様がいちばん望んでおられること。皆さんにたいするご命令なのです。

祈り　天のお父様、あなたがつかわされたイエス様のことばに聞き従います。

3月8日（土）

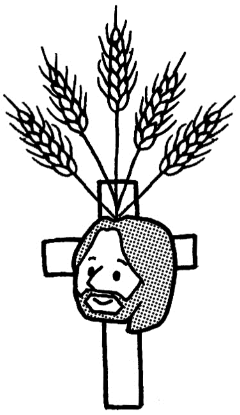
聖書　マタイ 17・1～8

聖句　彼らが目をあげると、イエスのほかには、だれも見えなかった。　8節

弟子たちがふるえながらひれ伏していると、イエス様がポン、と手をおいてくださいました。弟子たちが目をあげると、そこには元の姿にもどられた、いつものイエス様がおられ、ほかにはだれも見えませんでした。イエス様を見あげる弟子たちの心には、「彼の言うことを聞きなさい」という神様の声がひびいていました。

わたしたちの周りは、イエス様から離そうとする罪の誘惑がいっぱい。だから、いつも心の目をイエス様にむけてください。あなたがイエス様のことばに聞き従い、神様に喜ばれる人になりますように！

祈り　天のお父様、イエス様に目をむけ、聞き従い、あなたに喜んでいただけますように。



聖　書	ヨハネ 12・20～28
テーマ	一粒の麦として
暗唱聖句	一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それはただ一粒のままである。しかし、もし死んだなら、豊かに実を結ぶようになる。　ヨハネ 12・24
目　標	一粒の麦として死んでくださったキリストによる救いを受け取る。

3月9日（日）

聖書 ヨハネ 12・24

聖句 一粒の麦が地に落ちて死、それはただ一粒のままである。しかし、もし死んだなら、豊かに実を結ぶようになる。　24節

今週は、「一粒の麦」がキーワード。麦と言えば、家や給食で食べるパンにうどん、ケーキなどの材料。いろんな食べ物にたくさんの麦が使われていますね。麦粒を土にまくと、新しい芽が出て、たくさんの麦粒ができます。ほら、小学校の夏休みでアサガオを育てるでしょう。一つの種から芽が出て、たくさんの種がとれて、先生に見せたでしょう。

イエス様はみんながよくわかっている例えばなしで大切なお話をされました。さあ、耳をかたむけよう！

祈り 天のお父様、一粒の麦に耳をかたむけます。お話がよくわかるように助けてください。

3月10日（月）

聖書 ヨハネ 12・20～21

聖句 「君よ、イエスにお目にかかりたいのですが」と言って頼んだ。　21節

イエス様が一粒の麦のお話をされたのは、過越の祭りがはじまる直前のこと。祭りで神様を礼拝するため、エルサレムの町はたくさんの人たちでワイワイ、ガヤガヤ。その中には、何人かのギリシャ人がいました。そして彼らは、「イエス様にお会いしたいのですが…」とお弟子さんに頼んできたのです。

たとえユダヤ人ではなくても、「イエス様がどんなお方か知りたいな…」という気持ちがあったのですね。イエス様ってどんなお方か知りたいな！と思うことは大切なこと。イエス様のすばらしさがもっとわかるようになりますよ。

祈り 天のお父様、イエス様のすばらしさをもっともっと知りたいです！

3月11日（火）

聖書 ヨハネ 12・20～23

聖句 人の子が栄光を受ける時がきた。　23節

「イエス様、ギリシャ人たちが会いたいそうです」と弟子たちがイエス様に伝えました。するとイエス様は、「時がきました。人の子が栄光を受ける時が」と言われたのです。

これは、イエス様が、ユダヤ人もギリシャ人も関係なく、すべての人のために十字架にかかる時がきた、という意味です。イエス様はすべての人の罪のみがわりとなって、命をすてる決心をされたのでした。イエス様をたずねてきたギリシャ人たちのことを心から愛して、彼らのためにも十字架にかかってくださったのです。そう、もちろんあなたのためにも。

祈り 天のお父様、イエス様がユダヤ人ではないわたしのことを愛して、十字架にかかってくださったことを心から感謝します。

3月12日（水）

聖書　ヨハネ 12・24

聖句　一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それはただ一粒のままである。しかし、もし死んだなら、豊かに実を結ぶようになる。　24節

イエス様はつづけて言われました。「一粒の麦を土にまかなければ一粒のまま。しかし、土にまいてその麦が死ぬと、たくさんの実をむすびます」。一粒の麦は、土にまかれると新しい芽を出して、ボロボロになって消えてしまいます。でも、新しい芽はグングン育ってたくさんの麦粒をみのらせるのです。

イエス様は一粒の麦となって十字架の上で死んでくださったので、すべての人が永遠の命をいただくことができるのです。

祈り　天のお父様、イエス様が一粒の麦となって、命をすててくださったことを心から感謝します。

3月13日（木）

聖書　ヨハネ 12・25〜26

聖句　この世で自分の命を憎む者は、それを保って永遠の命に至るであろう。　25節

わたしたちが自分のことだけ考えて、自分のためだけに生きていくなら、永遠の命は与えられません、とイエス様ははっきりと言われました。逆に、自分のためだけでなく神様のために生きていくなら、永遠の命が与えられるのです。あれ、イエス様の十字架を信じたら永遠の命をいただけるのでは？もちろんそう。でも、信じたからもういいや、と神様を無視して生きていったら、永遠の命をすてるようなものです。せっかくイエス様に救われた命なんだから、神様のために生きよう！

祈り　天のお父様、自分のためだけに生きるのではなく、あなたのために生きていけますように。

3月14日（金）

聖書　ヨハネ 12・27〜28

聖句　しかし、わたしはこのために、この時に至ったのです。　27節

これから十字架に向かっていこうとしているイエス様…、どんなお気持ちだったでしょう。それは、「わたしをお救いください」と神様にお祈りするほどつらかったのです…。しかし、つらくても「わたしは十字架にかかるためにきました」と言われたのでした。

イエス様はけっして逃げたりなさいませんでした。どんなにつらく苦しくても、神様のみこころに従われたのです。イエス様がつらく苦しい十字架にかかる決心をしてくださったから、今、わたしたちは永遠の命をいただくことができるのです。

祈り　天のお父様、イエス様の決心してくださらなかったら、わたしは救われませんでした。心から感謝します。

3月15日（土）

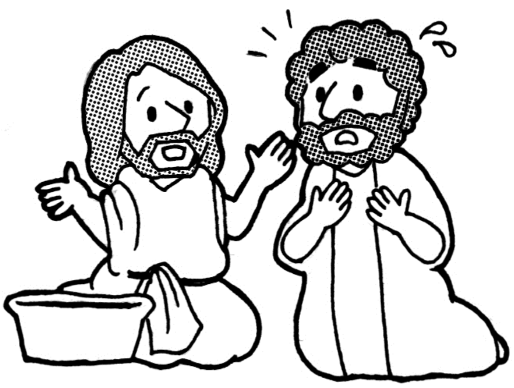
聖書　ヨハネ 12・20〜28

聖句　一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それはただ一粒のままである。しかし、もし死んだなら、豊かに実を結ぶようになる。　24節

イエス様は、一粒の麦となって、十字架にかかって死んでくださいました。それがイエス様の使命だったからです。

あなたにも、神様から与えられている使命があります。それは誰かにやさしくしてあげることかもしれないし、助けてあげることかもしれません。そのほかに、どんな使命があるかな？自分のために生きるのはもうおしまい。つらいことがあっても、イエス様のように神様と人のために生きることができたら、あなたもりっぱな一粒の麦！

祈り　天のお父様、わたしの使命を教えてください。一粒の麦として生きていけますように。



聖書　ヨハネ 13・1～15
テーマ　洗足の恵み
暗唱聖句　もしわたしがあなたの足を洗わないなら、あなたはわたしとなんの係わりもなくなる。
ヨハネ 13・8
目標　キリストの十字架の血による罪の赦しの恵みに生きる者となる。

3月16日（日）

聖書　ヨハネ 13・1
聖句　世にいる自分の者たちを愛して、彼らを最後まで愛し通された。1節

今週は、イエス様が十字架にかかられる前の日の場面を読んでいきます。

その日の夜、イエス様と弟子たちは、過越の祭りのお食事会をすることになっていました。イエス様は、特別な気持ちでお食事会に行かれました。なぜなら、明日、ご自分が十字架にかかることをわかっておられたからです。これが弟子たちとの最後の過越のお食事です…。

イエス様はやさしい目で弟子たちを見つめます。そして、弟子たちにたいして心からの愛をあらわされたのです。イエス様はなにをされたのかな？ それは、また明日！

祈り　天のお父様、イエス様が弟子たちにあらわされた愛が、よくわかるよう助けてください。

3月17日（月）

聖書　ヨハネ 13・1～5
聖句　弟子たちの足を洗い、腰に巻いた手ぬぐいでふき始められた。　5節

この時代、家にはいるときは、しもべが上着をぬいで、家に入る人たちの足を洗ったんですって。弟子たちがお食事のために家に入ると、なんと、イエス様が上着をぬいで、水をくんで、弟子たちの足を洗い始められたのです。弟子たちはびっくり！ イエス様はしずかに弟子たちの足を水でジャブジャブ、手ぬぐいでふきふき。

弟子たちの中には、イエス様を裏切ろうとしていたイスカリオテのユダもいましたが、イエス様はユダの足も洗われました。相手が自分に悪いことをするとわかっていても愛して、心をこめて足を洗われたのです。

祈り　天のお父様、わたしにたいして悪いことをする人も愛せるようにしてください。

3月18日（火）

聖書　ヨハネ 13・1～6
聖句　「主よ、あなたがわたしの足をお洗いになるのですか」と言った。　6節

イエス様が、まるでしもべのように、汚れた足を洗うなんて…！ 実は、弟子たちは、「弟子の中で、誰がいちばんえらいか？」と話をしていたところでした。誰かの足を洗うなんて絶対したくありません。そんな時、いちばんえらいはずのイエス様が、ご自分からしもべのしごとをし始めたのですから、もうびっくりです。ペテロの番になったとき、彼は思わず「イエス様がわたしの足を洗うのですか…？」と言ってしまいました。

ほかの人たちよりえらくなりたい、と思っていた弟子たち。イエス様のお姿を見て、ものすごいショックをうけたのでした。

祈り　天のお父様、えらくなりたいという思いから、わたしを守ってください。

3月19日（水）

聖書　ヨハネ 13・6〜8

聖句　もしわたしがあなたの足を洗わないなら、あなたはわたしとなんの係わりもなくなる。　8節

イエス様はペテロに言われました、「わたしがしていることは、あとでわかるようになりますよ」。意味がわからないペテロは、「イエス様、わたしの足を洗わないでください！」と言いました。イエス様に洗っていただくなんて、とんでもない！と思ったのです。するとイエス様は、「洗わなかったら、あなたはわたしとなんの関係もなくなります」。ええっ！ それはたいへん！ イエス様が言われたことには、たとえ意味がわからなくっても「はい！ わかりました！」とお返事することが大切です。ちゃ〜んと理由があるんですから。

祈り　天のお父様、イエス様のことばに、いつもすなおにお返事できますように。

3月20日（木）

聖書　ヨハネ 13・9〜11

聖句　すでにからだを洗った者は、足のほかは洗う必要がない。全身がきれいなのだから。　10節

イエス様と関係がなくなっちゃう?! あわてたペテロは、すかさず「じゃあ、手も頭も洗ってください！」と言いました。するとイエス様は、「土だらけの足以外は洗う必要がないですよ」と言われました。

イエス様を信じる人は、心もからだもきれいにしていただいた人です。でも、生活する中で、罪のゆうわくにあったり、ゆうわくに負けてしまうこともあります。弟子たちの土だらけの足のように、わたしたちの心は汚れやすいのです。わたしたちは毎日、汚れた心をイエス様に洗っていただく必要があるのです。

祈り　天のお父様、イエス様をとおして、罪で汚れやすいわたしの心を、毎日洗ってください。

3月21日（金）

聖書　ヨハネ 13・12〜14

聖句　あなたがたもまた、互に足を洗い合うべきである。　14節

弟子たちの足を洗い終わったイエス様は、こう言われました、「わたしがあなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも足を洗い合うべきです」。

えらくなりたい、と思うのではなく、しもべのように、お互いに仕え合いなさい、と言われたのです。イエス様はご自分を裏切ろうとしているユダの足まで洗われました。「あの人はイヤ！」と思うのではなく、どんな人も愛して、ゆるすこと。どんな人にも心をこめて仕えることを、イエス様は教えられたのです。

祈り　天のお父様、どんな人も愛し、ゆるし、仕えることができるように助けてください。

3月22日（土）

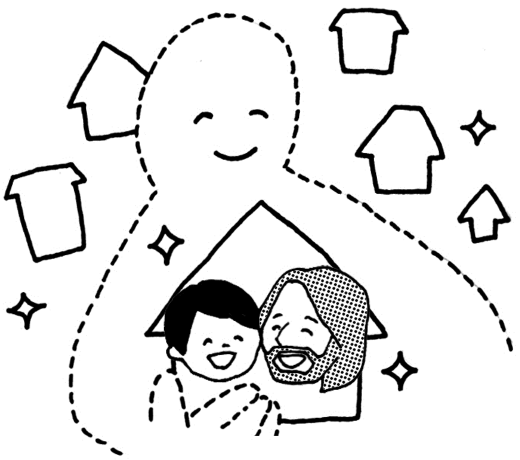
聖書　ヨハネ 13・1〜15

聖句　わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしは手本を示したのだ。　15節

イエス様が弟子たちの足を洗われたのは、弟子たちに愛のお手本を見せるためでした。イエス様はこのあと、すべての人の罪のみがわりに十字架にかかられます。神様に愛され、ゆるしていただいた者として、わたしたちは心から愛し合い、仕え合うのです。

神様が本当によろこんでくださる人は、えらい人ではありません。しもべのようになって愛する人、仕える人をよろこばれるのです。さあ、イエス様のお手本にならって、神様によろこばれる歩みをしていきましょう！

祈り　天のお父様、あなたに愛され、ゆるされた者として、イエス様にならって歩んでいけますように守ってください。



聖書	ヨハネ 14・1～6
テーマ	天の住まい
暗唱聖句	わたしの父の家には、すまいがたくさんある。　ヨハネ 14・2
目標	キリストを信じ、備えられた天の住まいに迎えられる者となる。

3月23日（日）

聖書 ヨハネ 14・1～6

聖句 わたしの父の家には、すまいがたくさんある。　2節

「青い空よりまだむこうの
　楽しい国にあるのは何
　子どもの住まう大きなおうち
　天の使いらの琴がひびく」
という賛美を歌ったことありますか？ 今、あなたはどんな家に住んでいますか？ わたしのお部屋がなくてちょっと淋しいよという人もありますか？ あんな家にすみたいなぁと、頭の中に最高の家を描いてみてください。しかし、イエス様の父なる神様の家には、わたしたちの頭で描く何倍もすばらしいすまいがたくさんあります。天のマンション！ 希望がいっぱいですね。

祈り 天のお父様、私たちの人生はこの地上だけでなく、天のすまいで永遠にあなたと共に生きる希望があり感謝です。

3月24日（月）

聖書 ヨハネ 14・1～2

聖句 あなたがたは、心を騒がせないがよい。神を信じ、またわたしを信じなさい。　1節

　あなたの心がザワザワさわぐ時ってどんな時でしょう？ ひとりぼっち、いじめられて、うらぎられて、といろいろあるでしょう。何よりも、「死んだらどうなる?!」と考えると、本当に心はザワザワしますよね。イエス様は、そんな弟子たちや私たちにむかって、「あなたがたは、心を騒がせないがよい」と力強く呼びかけました。「神を信じ、またわたしを信じなさい」。十字架により罪をゆるし、永遠の命をくださる神様を信じて平安になれます。

祈り 天のお父様、私の心のザワザワの原因はあなたがすべてご存知です。いつもあなたを信じて平安でおらせてください。

3月25日（火）

聖書 ヨハネ 14・3

聖句 わたしのおる所にあなたがたもおらせるためである。　3節

　「場所の用意ができたならば、またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう」とあります。イエス様は、今も私たちの住む場所を用意してくださっているのですね。何てうれしく楽しみなことでしょう。その用意ができてしまったら、私たちをイエス様のところに迎えに来てくださるというのです。それは「わたしのおる所にあなたがたもおらせるため」と言ってくださいます。愛する人同士は、いつもいつまでも一緒にいたいのです。

祈り 天のお父様、こんな小さな私のために天にすまいを備えて、やがて迎えに来てくださる約束を感謝します。

3月26日（水）

聖書 ヨハネ 14・4～7

聖句 わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。

6節

瀬戸内海をまたがって、四国と本州を結ぶ瀬戸大橋や、明石大橋はとってもきれいで車で走ると快適ですよ。イエス様は天と地とを結ぶ橋となり、天の父のみもとに通じるたった一つの道となってくださいました。イエス様以外に天の父のみもとに行ける道は、絶対にありません。清い神様と、私とをへだてる深い深い罪の淵は、誰にも何によっても埋められません。その上に架けられる橋はただ一つ、イエス様の十字架だけです。イエス様だけが道です。

祈り 天のお父様、あなたが私のために天からプレゼントしてくださった、ただ一本の道なるイエス様を信じます。

3月27日（木）

聖書 ヨハネ 14・4～7

聖句 わたしは道であり、真理であり、命である。

6節

「あの子の言うことはコロコロ変わるから、とても信じられないよ」と思ったりしたことがありますか。その子ばかりでなく、世の中の意見もコロコロ移り変わります。そういうのは真理ではありません。真理とは、永遠のはじめから、永遠の終りまで、その間の時代にも、どの国の人のためにも当てはまる、絶対に変わらないものです。ハアー？ そんな真理って、どこにあるの？「わたしは…真理であり」。そう、イエス様こそがズバリ！その真理なのです。

祈り 天のお父様、何もかもが移り変わる中で、イエス様こそは真理であると知り感謝です。ここにすべての解決があります。

3月28日（金）

聖書 ヨハネ 14・4～7

聖句 わたしは道であり、真理であり、命である。

6節

すべての生き物、人間をはじめとして、動物たちに、神様は命を与えて生かしていてくださいます。魚の命は、水の中で生き生きと生きていきます。人間や動物や鳥たちは空気の中で呼吸して生きていきます。しかしみんな、汚れた罪の世界の中の命で、やがて滅んでいきます。天国の清い命をもらわなければ永遠には生きられません。そのためにイエス様は十字架で死に、三日目によみがえって、命そのものとなり、信じる私たちにその命をくださいます。

祈り 天のお父様、「わたしはよみがえりであり、命である」と言われるイエス様にのみ、真の命があることを信じます。

3月29日（土）

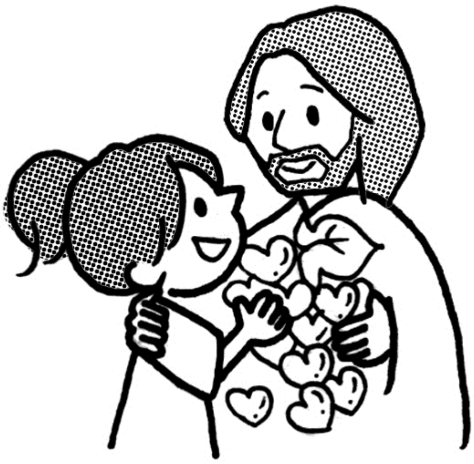
聖書 ヨハネ 14・8～12

聖句 わたしを見た者は、父を見たのである。

9節

この果てしなく雄大で奥深くバランスのとれた世界を創造された神、天の父は、私たちの肉眼では見えません。ピリポと同じように、「主よ、わたしたちに父を示して下さい」とお願いしたくなります。するとイエス様が「わたしを見た者は、父を見たのである」とおっしゃるではありませんか。え—っ！ そうなんだ、イエス様を見た人は父なる神様を見たことになる！ 何とワンダフル！ 私たちは今、信仰をもってイエス様と天の父を見ています。

祈り 天のお父様、やがて天の御国に入れていただき、あなたやイエス様とお会いできる喜びと希望をもって進みます。



聖書	ヨハネ 15・1～8
テーマ	実を豊かに結ぶ
暗唱聖句	わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。ヨハネ 15・5
目標	キリストにつながり、実を豊かに結ぶ者となる。

3 月 30 日（日）

聖書　ヨハネ 15・1～8
聖句　わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。　5節

ぶどう、好きですか？ 甘くて、ジューシーで、たまらなくおいしくて、私たちに大きな喜びと満足を与えてくれます。ぶどうの実がぶどうの木の枝になっているのを見たり、取ったり食べたりしたことがあるでしょうか。枝に実がなります。きょう、イエス様が、「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である」と言われます。ぶどうの木であるイエス様に、しっかりとつながっていれば、豊かな実を結べます。まわりの人に喜びと満足を与えていけるのです。

祈り　天のお父様、イエス様のみ言葉をしっかり覚え、信じ、そのとおりに行って、豊かに実を結ばせてください。

3 月 31 日（月）

聖書　ヨハネ 15・1～3
聖句　わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。　1節

イエス様はまことのぶどうの木、そして父なる神様は農夫だと言われます。ぶどうの木がしっかりと根をおろし、枝を張り、どの枝にも大粒ぞろいのおいしいぶどうの房が垂れさがるように、面倒を見ていてくださるのです。同じ木からいろんな枝が伸びてきます。中には実を結ばない枝もあり、父なる神様はその枝をとりのぞかれます。実を結ぶものは、もっと豊かに実を結ぶために手入れされます。つまり剪定ということをされます。あなたはどんな枝かな？

祈り　天のお父様、もっと豊かに実を結んでいけるように、あなたのみ言葉で私の魂をチェックしてください。

4 月 1 日（火）

聖書　ヨハネ 15・4～5
聖句　わたしにつながっていなさい。そうすれば、わたしはあなたがたとつながっていよう。　4節

ぶどうの木の中の樹液が、ちょうど人間の身体の中の血管のように、命となって、つながっている枝に流れこんでいくのでしょう。イエス様につながることによって、私たちの魂の中に、イエス様の命、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、自制という豊かな実がなっていくのです。何てうれしく、素晴らしいことでしょう。イエス様につながるとは？ イエス様の名によって集い、祈り、そして、しっかりと聖書を読み従うことです。

祈り　天のお父様、このイエス様からもし離れたら、私たちは何一つすることができないとよくわかりました。

4月2日（水）

聖書 ヨハネ15・6

聖句 人がわたしにつながっていないならば、枝のように外に投げすてられて枯れる。　6節

枝が木から離れるとどうなるのでしょう？しばらくは、つながっている枝と同じように、葉っぱも緑で、枝もしっかりしています。けれども、月日がたつにつれて、葉っぱは枯れ葉となっていき、枝全体も水分がなくなって、ひからびていき、やがて枯れます。人々がそれをかき集め、火に投げ入れて焼いてしまうと、イエス様が言われます。何と恐ろしいことでしょうか。イエス様とつながっていないことはとても恐ろしい結果になります。しっかりつながりましょう。

祈り 天のお父様、つながらない枝の恐ろしさを知りました。ますますしっかりとイエス様につながっていきます。

4月3日（木）

聖書 ヨハネ15・7〜8

聖句 あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたにとどまっているならば、なんでも望むものを求めるがよい。　7節

イエス様につながっている者の強味がここに約束されています。つながっていて、イエス様の言葉が心にとどまっているならば、なんでも望むものを求めるがよいとあります。つまり、お祈りが大胆にできるということです。なんでも望むものを求めるなら、与えられるであろうとの約束です。「祈りの実」が豊かに与えられるということになります。信じて、なんでも望むものを求めていきましょう。

祈り 天のお父様、それほど大胆にはお祈りしていませんでした。これから、もっともっとなんでも祈り求めます。

4月4日（金）

聖書 ヨハネ15・9〜11

聖句 わたしの愛のうちにいなさい。　9節

父なる神様がイエス様を愛された愛は、どれほどの愛だったでしょう？ 地上でイエス様が天を仰いでお祈りされると、父なる神様はいつでも喜んでこたえてくださいました。「そんな父の愛ほどの愛をもって、私もあなたがたを愛したのだよ、だから、私の愛のうちにいなさい」と、やさしく語りかけていてくださいます。ちょうど赤ちゃんがお母さんの両腕の中に安らかに、幸せにいるように、私たちもイエス様の愛のうちにいつも安らぎましょう。

祈り 天のお父様、決して変わったり色あせたりしない、いつも熱いイエス様の私への愛のうちにいこいます。

4月5日（土）

聖書 ヨハネ15・16

聖句 あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。　16節

あなたはだれかにさそってもらって教会に来るようになりましたか？ それとも、お母さんのおなかの中にいる時から教会に来ていますか？ いえ、私は自分から教会をみつけて来るようになりました、という人もいるかもしれませんが。どの人にしても、実は、私たち人間が選んで決めて来たのではないのです。見えない神様が、永遠のご計画をもって、私たちひとりひとりを選んでくださっていたのです。感激でしょう?! それは豊かに実を結ぶためでした。

祈り 天のお父様、この小さな私さえも、あなたの方から選んでくださったことを知り、感謝に満たされます。